

*Patentamt
8. 11. 1940
R*

JAPANISCHE GEBRAUCHSMUSTERURKUNDE.

Gebrauchsmusternummer : 2 8 4 7 2 2

Gebrauchsmusterinhaber : Carl K u e b l e r

Bezeichnung der Erfindung : "Rechenschieber mit Additions- und Subtraktions-
einrichtung".

Erfinder : Carl K u e b l e r

Bekanntgabe : 31. Januar 1940.

Nachdem die obige Erfindung für patentfähig erklärt und
in die Gebrauchsmusterrolle eingetragen ist, wird hierüber die vorliegende Urkunde erteilt.

Tokyo, den 20. Mai

1940.

Der Präsident
des Kaiserlichen Patentamts

(Siegel)



登録第 二八四七二二 號

實用新案登録證

國籍

獨逸國

同國伯林ウエー一五、ブランデンプル
ギイツシエストラーセ 四一

カール、キユーブレル

考案者 同右

實用新案ノ名稱

加減裝置ヲ備フル計算尺

實用新案ノ登録スヘキモノト確定シタリ乃テ實用新案
原簿ニ登録シ本證ヲ下付ス

昭和十五年 五月二十日

特許局長官 大貝晴彦



昭和十五年 實用新案出願公告第一四三號

第一百十三類 一、計算尺類

願書番號昭和十三年第三三三六八號

出願 昭和十二年六月二十八日 (前特許出)

西曆千九百三十六年六月二十九日優 (願日採用)

先權主張 (獨國出願)

獨逸國伯林ウエー一五、ブランドン

ブルギイツシエストラーセ四一

出願人 考案者 カール、キユーブレ

東京市麴町區丸ノ内二丁目六番地

八重洲ビルディング 代理人 辨理士 カール、フオーグト

加減裝置ヲ備フル計算尺

圖面ノ略解 第一圖ハ本實用新案ニ依リ計算器及調節「ピン」ヲ背側ノ一部切載セル計算尺ノ「セルロイド」板ノ下方ニ設ケタル構造ヲ示セル圖第二圖ハ第一圖ノ線⑧—⑧ニ沿ヒテ切斷セル斷面圖第三圖ハ計算尺ノ端面圖第四圖乃至第六圖ハ夫々背側ノ被覆板ト計算尺自體ヲ背側ヨリ見タル計算器ト調節「ピン」ヲ示セル斜面圖第七圖ハ計算尺ノ一部ノ背面及他ノ計算器取付様式ヲ示セル圖第八圖ハ第七圖ノ線①—①ニ沿ヒテ切斷セル橫斷面圖
實用新案ノ性質、作用及效果ノ要領 單ニ工業上ノ計算ニ於テノミナラズ見積價額ノ決定賃銀表ノ作成仕事ノ算出等ニ於テ掛算、割算及比例計算ニ計算尺ヲ使用スルコトハ從來極メテ普通ノ所ナリ尙其ノ際並ビニ時折ニハ加算及減算ヲ爲サザルベカラズ
加算及減算ガ同様ニ計算尺ニ於テハ行ヒ得ザルコトハ煩ハシク且



不利ナルモノナルコト發見セラレタリ加算及減算ヲ加算機及減算機ニ於テ行フコトハ勿論既ニ提案セラルル所ナリ然レドモ此ノ場合ニハ計算若ハ計算尺ヲ使用セズシテ其ノ裝置ヲ使用セザルベカラザリキ

(特許局發行)

本考案ハ從來ノ計算尺ニ於ケル前記ノ缺點ヲ刈除シ計算尺及計算器ヲ一ツノ機器ニ形成シ斯クシテ計算者ガ直チニ一方ノ計算様式ヨリ他ノ計算様式ニ移リ得ル如ク組合セシムルコトヲ目的トス此ノ問題ヲ解決セシムルタメニハ次ノ條件ヲ満たサザルベカラズ
加算及減算ヲ行フタメノ計算器又ハ計算裝置ハ計算尺ノ構成分ヲ形成シ得尙此ノ計算器又ハ計算裝置ハ可及的ニ狭ク且平カニ保タレザルベカラズ又前記計算器又ハ計算裝置ハ計算尺ノ計算工程並ビニ取扱ヒテ阻害セザルコトヲ要ス加算及減算ヲ行フタメノ計算裝置ハ修理等ヲ行フ場合ニハ計算尺ヨリ分離サレ且再ビ速ニ装着サレ得ルモノタルコトヲ必要トス計算鉛筆ハ同様ニ計算尺ノ背側ニ設ケラレザルベカラズ
此等ノ問題ハ本考案ニ從ヘバ高サノ低キ狭キ計算器ヲ加算及減算ノタメ特ニ計算尺ノ背側ニ裝備セシムル如クナスコトニヨリテ解決シ得他ノ計算尺ニ於テハ計算器ヲ計算尺體ノ橫溝内又ハ導子内ニ嵌裝セシムルモノトス
更ニ他ノ優秀ナル計算尺ニ於テハ計算杆又ハ計算尺ノ部體ヲ例ヘバ「セルロイド」ヨリ成レル背壁ガ一定ノ間隙ヲ以テ弛ク嵌入サレ且計算器ヲ確實ニ固定シ得其ノ際計算尺ノ上方ノ床彈狀裝置ガ保タルル如ク分タルモノトス
本實用新案ヲ圖面ニ就キ左ニ説明ス
第一圖乃至第六圖ニ於テハ計算尺ハ公知ノ方法ニテ内部ヲ舌部

(4)ガ彈條的ニ滑動シ得ル木材枳⁸ヨリ成リ此ノ舌部⁴ハ通常ノ如ク兩側ニ例ヘバ「セルロイド」製ノ包被ヲ備ヘ同様ニ上面ト垂直並ビニ適當ニ傾斜セル側面トニモ「セルロイド」等ヲ包被セシメ且尺度等ヲ收容シ得十字織條ヲ備フル硝子滑子⁵ニ對スル導子モ亦舌部分ヲ裝置サルナリ

例ヘバ「セルロイド」、金屬、「ベークライイト」又ハ其ノ他ノ類似物質ヨリ成レル側壁⁶及⁷ハ縁部ニ於テ曲折サレ内方ニ突出セル此等兩隅角部⁸ノ間ニハ背壁又ハ被覆壁⁹ガ嵌入セラレ枳體³ノ木材製背壁ハ第六圖ニ於テ圖示セル如ク¹⁰ノ個所ニ於テ切缺サレ此等ノ部分内ニ計算器¹ガ嵌入セシメラルナリ組立ヲ容易ナラシムルタメニ木材枳體ノ内部ニ位置セル窄小縁部¹¹ハ良好ナル係合子ヲ呈シ從ツテ背壁⁹ノ嵌入ノ後計算器ハ常ニ正シキ位置ニ在リ此ノ背壁⁹ニハ計算器ノ調節及計算ニ必要ナル凡テノ部分ヲ釋放スル窓¹ガ穿設サレ從ツテ此ノ窓¹ハ加算部分及減算部分並ビニ計算器ノ記入ヲモ枳ニ入ルルモノトス

計算器ノ外縁ニ對シテ計算尺壁³ノ切缺部¹⁰ニハ¹²ノ個所ニ於テ係合突耳ガ取付ケラレ其ノ後方ニ於テハ計算器ヲ支持シ得

被覆板ノ端部ニ於ケル切缺部¹²ハ舌部ノ取扱ヒ並ビニ計算器ノ零調節表示器¹ノ調節ヲ容易ナラシム

他端部ニ於テハ計算鉛筆¹³ニ對スル導子¹ガ木材體³内ニ設ケラレ此ノ鉛筆ハ彈條裝置ヲ有スル背壁ニヨリテ固定セララルナリ

此ノ背壁⁹ハ側壁ノ隅角部⁸ノ後方ノ間隙ト弛ク嵌合スルガ故ニ計算尺ノ床彈條裝置ハ維持サレタルママニシテ若シ修理操作ガ行ハレ或ハ計算器ガ取出サレザルベカラザル時ニハ簡單ナル裝置ヲ可能ナラシムルナリ

背壁ノ區分ハ他ノ方法ニテモ行ハレ得例ヘバ背壁ノ半部宛ヲ側方ノ隅角部⁸ト固結シ得斯クシテ背壁ハ中央部ニ於テノミ割レ此ノ背壁ハ側方ノ尺度ヲ擔持スル隅角部⁸ト固定サレ或ハ一ツノ部片ヨリ形成セラレ得且之ト側壁ヲ介シテ弛ク組立テラレ得尺度ヲ擔持スル側面⁶及⁷ガ丸クサレ或ハ銳角狀ニ形成サルルカ否カハ瑣瑣タルコトナリ

計算器ヲ木材枳ニ取付クルニハ次ノ如クシテモ行ハレ得

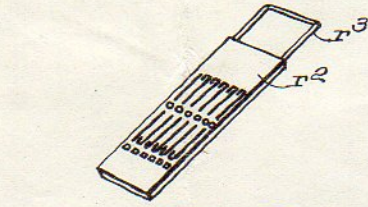
計算器ガ第一圖ニ示セル方法ニテ計算尺體³上ニ取付ケラルル時ハ硬剛ナル計算器ハ木材體內ニ於ケル側方ノ運動並ビニ振動ヲ阻止シ且舌部又ハ滑動子ハ緊縮セラレ操作ハ困難トナルナリ第七圖及第八圖ニ於テハ滑動子⁵ノ木材枳ハ縱方向ニ於テ¹⁴ノ個所ニテ溝ヲ刻設サレ計算器ハ端部ニ於テ一側ニ添板ヲ設ケラレ而シテ此ノ添板ニヨリテ木材體³ノ半部ノ上ニノミ取付ケラルルナリ登錄請求ノ範圍 圖面及説明ニ示ス如ク背面ニ加算及減算用裝置ヲ具備スル計算尺ニ於テ對數計算尺ノ枳體³ノ背壁ニ匣ノ「スリット」ニ依リテ調整シ得ベキ加算及加算用ノ數計滑子ヲ包含スル計算器ヲ設ケ該計算器ノ匣ヲ計算尺ニ嵌合シテ一體ノ器具トナシ而シテ該計算器ハ孔¹ヲ有スル背壁⁹ニ依リ殊ニ外部ニ對シテ閉鎖セラレ該孔ヲ通シテ外部ヨリ調整「ピン」¹⁵ニ依リ計算器ノ匣内ニ於テ前記數計滑子ヲ往復運動セシムル如クナシタル構造

昭和十五年實用新案出願公告第一一四二號

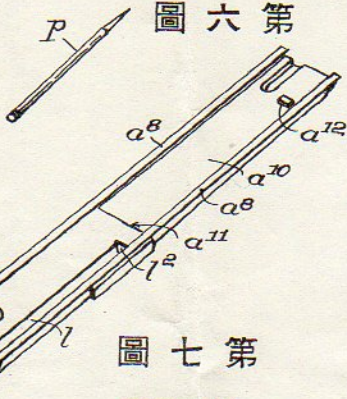
圖一第

圖二第

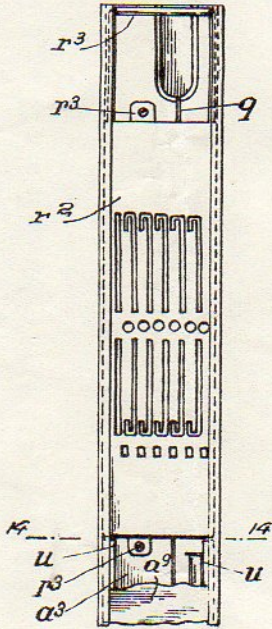
圖五第



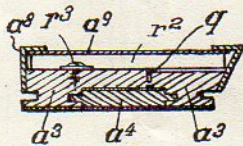
圖六第



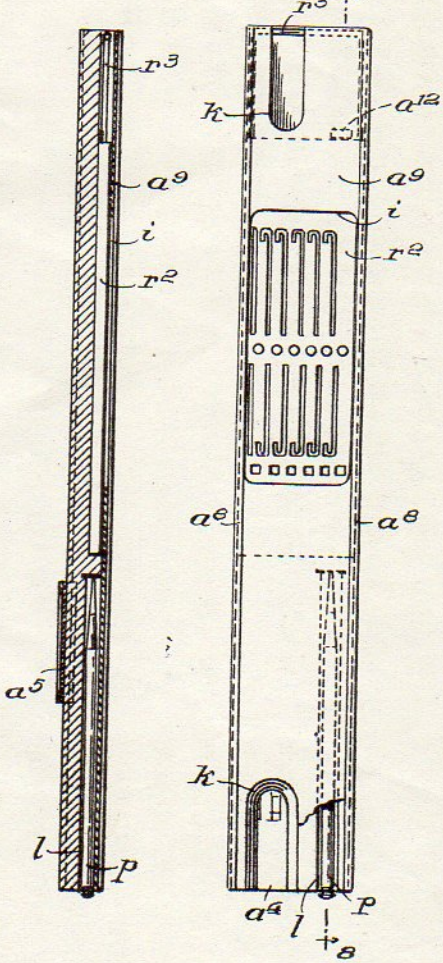
圖七第



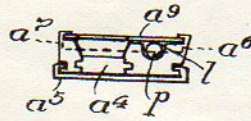
圖八第



圖一第



圖三第



圖四第

